紀　勢　新　聞　令和6年(2024年)5月16日　(木曜日)　(日曜・祝日翌日休刊)　日刊

ふるさと納税に感謝

中学生・組みひもでリストバンド

尾鷲市立尾鷲中の生徒が14日、「叶結び」の組ひも作りに取り組んだ。全校生徒299人が、市職員らに教わりながら、8月の港まつりに来てもらうふるさと納税者に渡す組ひもリストバンドを作成した。

尾鷲市は毎年、前年度にふるさと納税をした人に声を掛け、花火観覧席を用意するなど港まつりに合わせて尾鷲に訪れてもらう企画を行っている。小中学校の施設整備など、児童生徒もふるさと納税の恩恵を受けていることを知ってもらい、感謝の気持ちを伝える取り組みとして企画した。

リストバンドは、尾鷲市のふるさと納税のイメージカラーの赤と水色のひもを、〝願いが叶う〟とされている縁起のいい「叶結び」という方法で編んだもの。

叶結びでリストバンドを編んでいく生徒

作業の前に、市政策調整課の職員が、ふるさと納税（寄付）の仕組みや状況、寄付の使い道などを説明。約80業者の500品が返礼品となっていること、約4万人から5億円の寄付があり、3割は返礼品に使われ、残りは寄付者の意向に沿いながら教育、防災、産業振興などに使われている。担当職員は「市の予算も増え、地域課題の解決や地域活性化につながっている」などと説明した。また、返礼品を出している農業者の日下浩辰さんが尾鷲の甘夏について紹介した。

説明の後、学年ごとに分かれ、5～6人で班を作ってひもを編む作業に取り組んだ。説明書が配られ、「難しい」「分からない」などと苦戦しながら、コツをつかんだ友達や市職員に教わり編み上げていた。

1年の女子生徒は「難しく、時間内に作れなかった。教室でゆっくり仕上げたい」と話していた。

27日には輪内中でも同様の取り組みを行う。市は70周年にちなんで700人を招待する予定で、招待者に身につけてもらうことにしている。

バルで農産物PR

前売り券は残りわずか

尾鷲旬のコツまみバルが18日（土）尾鷲市街地で行われる。本部となる野地町駅前児童公園では、道法スタイルで取り組む農業者のグループ「つなぐ」が、産品を使った飲み物、食べ物などを販売する。

商品は、甘夏生絞りサワー、虎の尾サワー、虎の尾カレー、尾鷲檜麦酒、三木里の農産物を使ったおつまみで、いずれも500円。

観光物産協会は、市制70周年の特別ラベルの尾鷲甘夏しおサイダーを販売するほか、70本限定の7年熟成鉾杉の抽選申し込みを受け付ける。

尾鷲商工会議所によると前売り券は残りわずか。特典付きだったこともあり、インターネットでの申し込みが好調だった。50冊だけ当日券とする。問い合わせは商工会議所（0597・22・2611）。

本年度は62テーマ

出前トーク利用呼び掛け

尾鷲市は出前トーク「こーしょうらい」に取り組んでいる。今年は62テーマを設定しており、利用を呼び掛けている。

市民の疑問に担当者らが答える。市内在住または通勤、通学している人10人以上のグループが対象。時間は、年末年始を除く午前9時から午後9時までの間で90分程度。希望する日の2週間前までに市政策調整課に申し込む。

同課によると、直近の実施実績は令和5年度が4回、4年度が1回。

テーマは第7次尾鷲市総合計画、介護予防、ごみの出し方、地震・津波対策、水道、海洋深層水、漁業、林業、農業、歴史・文化財、市民参画、行政財改革、

紀北町工事入札

紀北町でこのほど、工事8件の入札があり、次の通り落札した。